

音楽体操は認知症患者の日常生活動作を維持する：

御浜・紀宝プロジェクト・パート 2

Physical exercise with music maintains activities of daily living in patients with dementia: Mihama-Kiho project part 2

©佐藤正之、小川純一、時田智子、中口紀子、仲尾貢二、田部井賢一、木田博隆、富本秀和
Masayuki Satoh, Jun-ichi Ogawa, Tomoko Tokita, Noriko Nakaguchi, Koji Nakao,
Ken-ichi Tabei, Hirotaka Kida, Hidekazu Tomimoto

- 1) 三重大学大学院医学系研究科認知症医療学講座
- 2) ヤマハ音楽振興会
- 3) 御浜町健康福祉課
- 4) 紀宝町福祉課
- 5) 紀南病院脳神経外科
- 6) 三重大学大学院医学系研究科神経病態内科学

【目的】我々は、音楽伴奏の付いた体操がそうでない体操よりも、健常高齢者の認知機能をより改善することを報告した (Satoh M, PLOS ONE, 2014)。今回、認知症患者に対する音楽体操の効果について調べた。

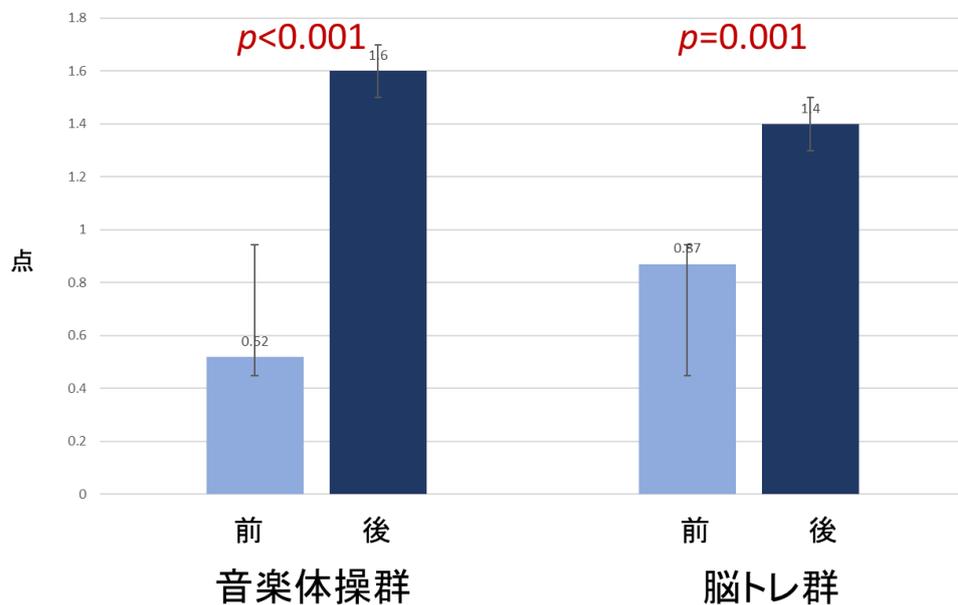
【対象と方法】認知症患者 85 名 (MMSE 16~26 点) をランダムに音楽体操群 (ExM) 43、脳トレ群 (BT) 42 名に分けた。週 1 回 40 分、ExM には音楽体操、BT には携帯型ゲームやドリルを半年間施行した。前後に神経心理検査を行い、認知機能と日常生活の変化について検討した。

【検査】神経心理：MMSE、レーブン色彩マトリシス検査 (RCPM)、論理的記憶の即時/遅延再生 (LM-I/II)、語想起 (動物名、語頭音)、Trail-Making Test (TMT) -A/B、立方体模写。日常生活：Behavioral Pathology in Alzheimer's Disease (Behave-AD)、Functional Independence Measure (FIM)

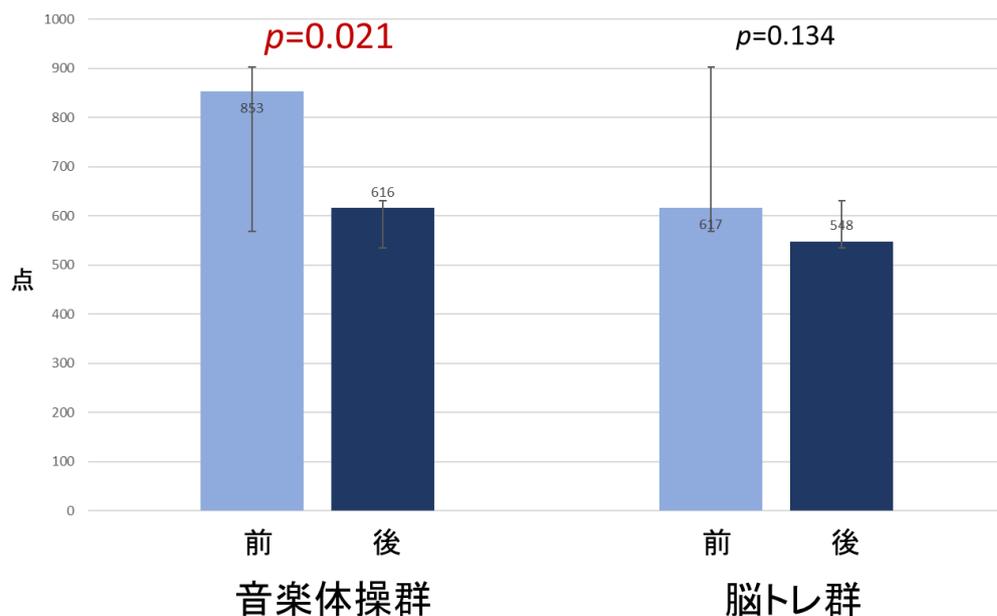
【結果】脱落者 23 名を除く 62 名について解析した。年齢、教育歴、開始時 MMSE に両群で差はなかった。変化量について群間比較を行ったところ ExM で、立方体模写に有意な改善 ($p=0.009$)、TMT-A ($p=0.070$) と FIM ($p=0.066$) に改善傾向がみられた。各群内での前後比較では、両群ともに立方体模写 (ExM $p<0.001$; BT $p=0.001$)、ExM では RCPM の施行時間 ($p=0.021$)、BT では LM-I ($p=0.039$) が有意に改善した。FIM は ExM では変化はなかったが ($p=0.385$)、BT は有意に悪化していた ($p=0.048$)。

【結語】音楽体操は、軽度から中等度の認知症患者の日常生活動作 (activities of daily living, ADL) を維持する。

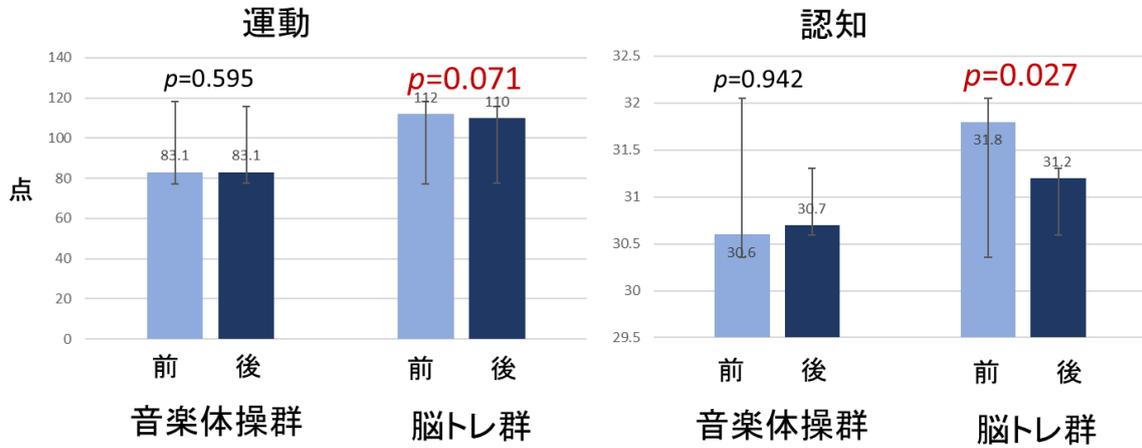
立方体模写(視空間認知)



RCPM: time (知能検査の施行時間)



FIM(下位項目)



FIM(総得点)

